

傀儡師 (復新三組臺)

蓬萊の島は

目出度い島での

黄金楯にて米はかる

紗のしやの袴紗の袴よの

竹田のむかしはやしごと

誰が今知らん傀儡師

阿波の鳴門を小唄とは

晋子が吟の風流や古き合点でそのまゝに

小倉の野辺の一本芒

いつか穂に出て尾花とならば

露が嫉まん恋草や

恋ぞ積りて澗となる澗ぢやこんせぬ花嫁に

仲人を入れて祝言も四海波風穏やかに

下戸の振して口きかず

物もよく縫ひ機も織り心よさそなかみさまの

三人もちし子宝の

総領息子は親に似て

色と名がつきや夜鷹でもこせでも巫女でも市子でも

可愛いかわいが落合ふて

女に憂身やつしごと

一番息子は堅造で

ぼき 折れるとげ茨

二番息子は色白で

お寺小姓にやり梅の

吉三と名をも夕日かけ

それとお七はうしろから

見る目可愛き水仙の初に根締のうれしさに

恋といふ字の書初を湯島にかけし筆つばな

八百屋万の神さんに堅く誓ひし縁結び

かならずやいの寄添へば

そこらへひよっくり弁長が

いよ 色のみばえだち差合くらずにやってくるりよ

やれエどらがによらいやれ おぼくれ

ちよんがれちよつと

そこらでちよつくらちよつと

聞いてもくんねえ

嘘ぢやござらぬ本郷辺りの

八百屋のお娘が十六さゝげになんねえ先から

末は芽つどに奈良漬なんぞと

胡麻せた固めを松露のしるしに

きしやうが書いたり小指を胡瓜はさりとは

うるせえこんだに

奇妙頂礼

どら娘

〽これはさておき

〽既に源氏のおん大将

御曹子にてまします頃

長者が姫と語りひも小男鹿ならで笛による

〽想夫連理のこひすてふ

惜しあかつきのかごとにも

〽矢はぎの橋は長けれど

〽逢ふたその夜の短かさよよい

よいやさおのこ

〽敵と数度の戦ひに勝どきあげくに大物の

恨みつらみも波の上

〽そもそもこれは桓武天皇九代の後胤

平の知盛幽霊なりアラ珍らしや

〽如何に

どつでエ

義公

娑婆以来

〽馴染の弁州

伊勢

駿河

早く盃さあさし汐吸もの椀にて叶ふまじと浮いて散らして拍子とり

〽すいてうえいちゃ

〽やっちゃ子供よ振鼓そこで仲よう遊べさ

〽花が見たくばナウそれ

吉野へござれそりやうそなんの今頃花があるイエナア

やがて咲きます六つの花そりや

ほんかいな木毎にえ見事にえ景色よしのゝ花と雪

〽面白や

〽眺めありあふ箱鼓とり

ぱつと忽ちにすゞめ追はへて慕ひゆく

雀追はへてしたひ行く。